

令和6年茂原市教育委員会会議9月定例会日程

日時：令和6年9月25日（水）15時00分～

場所：茂原市役所9階901・902会議室

1 開会宣言

2 会議録署名人の指名

3 会議事項

（議決事項）

議案第1号 茂原市立美術館・郷土資料館協議会委員の任命について

（報告事項）

報告1 第10回茂原市立図書館指定管理者評価委員会による評価結果について

4 閉会宣言

報告 1

第10回茂原市立図書館指定管理者評価委員会による評価結果について

茂原市公の施設に係る指定管理者の指定の手續等に関する条例第7条に基づき、指定管理者から令和5年度茂原市立図書館指定管理業務報告書が提出されたため、茂原市立図書館指定管理者評価委員会を開催し総合評価及び所見をとりまとめましたので、次のとおり報告します。

- 1 日 時 令和6年7月22日（月） 14：00～15：25
- 2 場 所 茂原市役所 901・902会議室
- 3 評価委員会委員（茂原市立図書館指定管理者評価委員会設置要綱第3条第1項）

	職	氏 名
委員長	教育部部長	中村 一之
副委員長	教育部次長	新木 和敏
委員	生涯学習課長	岡田 公一
委員	東部台文化会館長	鶴岡 嘉孝
委員	図書館協議会会長	齋藤 勝
委員	図書館協議会委員	江澤 いつ子

- ・要綱第4条第2項により、竹内悟図書館長・西川友美副館長・澤田伊織千葉県担当営業出席

4 提出された資料

評 価 項 目	資 料 名
1. サービス向上の有効性	・ 令和5年度茂原市立図書館指定管理事業計画書 ・ 令和5年度茂原市立図書館指定管理業務報告書 ・ 自主事業提案書及び報告書 ・ 利用者アンケート実施報告書 ・ 月例及び年次報告
2. 管理運営の適正性	・ 職員シフト表 ・ 職員研修報告書 ・ 保守点検報告書 ・ 備品台帳 ・ 大崎コンピュータ定例会議事録、課題管理表 ・ 個人情報保護及び危機管理マニュアル
3. 経費の効率性	・ 令和5年度茂原市立図書館指定管理業務報告書 ・ 令和5年度管理運営に係る収支報告書
4. 業務の改善性	・ 前回の評価結果及び改善報告

5 令和5年度評価の総括及び指摘事項

- ・総合評価

B（適当）となり、各評価項目に対して一定の成果があった。

- ・総括及び指摘事項

自主事業の実施や工夫を凝らした情報提供などにより、利用者の読書意欲を引き出す取り組みを継続的、効果的に実施したことは評価できる。コロナ禍が続いた状況でも貸出が回復しており、行事も一部を除き順調に実施されているので、今後も創意工夫のうえ継続してほしい。図書館の移転に関しては、東部台文化会館・公民館・福祉センター図書室等に新図書館基本計画を置いて閲覧出来るようにし、今後の利点を市民に伝え、理解が得られるように努められたい。

報告 1 参考資料 令和 5 年度における指定管理者評価表

1. サービス向上の有効性	指定管理者評価・評価理由		委員評価・評価理由	
① 市の継続事業と合わせて事業計画書に沿った自主事業が実施されたか	A	本今年度からは、新型コロナウイルス感染症が 5 類に引き下がったことで、予定していた事業は順調に実施できた。継続事業 32 件、新規事業 6 件、支援事業 7 件を計画し、実施したものは、継続事業が 33 件、新規事業が 6 件、支援事業が 5 件という結果で終了。継続事業で計画した「出張おはなし会」、支援事業の「学校・市立図書館・教育委員会の連携」については未達成となった。 【継続事業】 ・「こどもコンシェルジュ」：託児サービスのバリエーションとして、委託している明日香と協力しておこなった。10 組の予定だったが 3 組の参加にとどまった。図書館での子育て支援という新しいサービスのため今後集客を伸ばしていきたい。 ・「大人のための映画会」：茂原市ロケ地作品 4 本の映画・ドラマ上映会の一環として、第一弾を上映。一日 3 回上映で、延べ 90 名が参加した。今後年度をまたいで、3 本上映する予定。 ・「第 9 回茂原市立図書館を使った調べる学習コンクール」：応募総数 436 作品。小学校 11 校、中学校 2 校から応募があった。入選は、小学校 17 点、中学校 2 点となり、全国コンクールへ 7 点推薦した。今後の課題は、応募校の底上げと全国コンクールでの入賞だ。来年度は第 10 回目の記念コンクールとなる。さらなる飛躍を目指したい。 【新規事業】 ・「大人の塗り絵講座」：定員 24 名で満席となった。大人向けの工作は人気があった。	B	広い視点に立った企画がなされ、落語や映画の上映が好評と聞いている。また七夕等茂原を素材とした企画が取り入れられており計画通り実施がされている。
② 仕様書に基づいた利用者アンケートにより意見の収集を図り、改善等の意見にはそれを反映させた対応が行われたか	B	利用者アンケートは、令和元年度から、夏に Web によるアンケートを開始し、現在年 2 回実施している。冬に実施している通常のアンケートが図書館来館者のみに対し実施しているのに対し、この夏のアンケートでは、「茂原市立図書館」のイメージを利用者のみならず利用されていない方に対しても広く意見を求めるものとなっている。 ■「茂原市立図書館についての Web アンケート」について ○実施期間：令和 5 年 8 月 28 日（月）～9 月 27 日（水） ○アンケート方法：茂原市立図書館ホームページにアンケートフォームを設置	B	アンケートを踏まえた図書館事業に取り組んでいる。アンケートにおいては、利用者の意見を丁寧にくみ取っており、その姿勢はとても評価でき

報告 1 参考資料 令和 5 年度における指定管理者評価表

	○回収件数：82 件 ○年齢：主に 30 歳代から 60 歳代 ○利用率：回答いただいた人は、82%が図書館を利用している ○利用目的：図書館で想定している回答ではあるが、図書館サービスを知っている利用者が多い ○利用理由：立地の良さ、利便性が高いという理由が多かった ○利用していない理由も聞いたが、サンプルが少なくつかみきれない ○利用頻度を高めるには：オーソドックスな資料の充実が目立つが、根強く開館時間の延長も見受られる。また情報提供では、SNS での発信を希望する人は増えている ○電子図書館について：まだまだ定着していないが、コンテンツ（電子書籍）の充実は必須である ○移転について：移転については、市でパブリックコメントなど施策を講じているが、アンケートに限っては、移転賛成、反対が二極化している。 ■「茂原市立図書館についてのアンケート」について ○実施期間：令和 6 年 1 月 8 日（月）～1 月 26 日（金） ○アンケート方法：茂原市立図書館カウンターで配布。回収箱で回収。同時期同様の設問で図書館ホームページでアンケートフォームを設置して実施 ○回収件数：157 件（用紙 97 枚、Web60 件） ○年齢：主に 30 歳代から 80 代 ※Web アンケートに比べて年齢が上がり、幅広く回答をいただいた ○居住地：市内が 8 割以上占めるが、市内以外の長生郡、拡大地域からも回答があった ○利用施設：図書館と東部台で 85%の回答 ○利用頻度：一か月に 2.3 回の利用が半数で、年に数回の利用者も 14%いる ○交通手段：徒歩、自転車、自動車で 8 割 ○滞在時間：90 分以内が大半で、目的をすませたらすぐ帰る傾向にある ■「茂原市立図書館についての Web アンケート」と「茂原市立図書館についてのアンケート」への自	る。図書館の移転に反対する意見が多いが、生涯学習課と十分協議のうえ、丁寧な回答を望む。
--	---	--

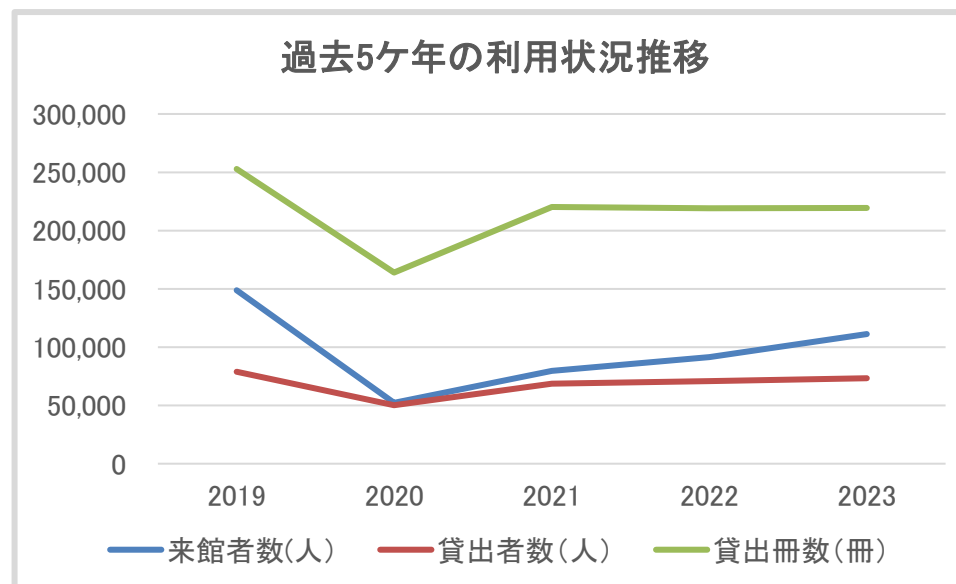
報告 1 参考資料 令和 5 年度における指定管理者評価表

		由意見について アンケートの特性上個人的な要望、意見が多かったが、以下図書館の回答を含めて、行ったこと、行っていきたいことをまとめた。 【資料について】 さまざまなご意見をいただく。図書館は、新刊など新しい情報提供も行うが、図書館として必要な資料の収集保存の役割を担っている。限られた予算の中で、バランスよく利用者の要望を取り入れる収集選書をおこなった 【システム・ウェブサイトについて】 今後のシステム更新に向け検討する 【施設・読書環境について】 施設は、今ある環境をいかに有効活用するかがポイントで、コロナ禍以降、居場所としての図書館の特性が一時期中断したことは確か。昨年 5 月の 5 類引き下げを受け、学習席、閲覧席をコロナ禍以前に戻したりと、今後少しずつ“くつろげる”“居心地の良い”環境整備を目指す 【駐車場・駐輪場について】 茂原市立図書館は図書館施設として駐車場、駐輪場を備えておらず、近隣の駐車場や入居しているサンヴェルビルの駐輪場を提供。 【移転について】 アスモへ移転することで賛否両論ある。特に自動車を使えない利用者から不便という意見がでた。2024 年度当初に公開された「茂原市新図書館基本計画」に構想が示されている		
③ 利用者数等の実績は改善されたか	B	第二期指定管理期間（2019 年度から 2023 年度）は新型コロナウイルス感染症により、図書館サービスに制限がかかり、閉館や時短、さらにイベント・事業の中止、人数制限など、今までの利用数字とはかけ離れた結果となり、数字の比較が非常に難しくなった。 下表のとおり、前年比較では、取り戻しつつある項目もあるが、2019 年度との比較ではコロナ禍以前までは回復していないのが現状だ。2019 年度と 2023 年度を比べると「来館者数」は 74.8%、「貸出	B	来館者数、貸出者数等順調に回復している。昨年の台風 13 号の災禍にも関わらず健闘がみられる。

報告 1 参考資料 令和 5 年度における指定管理者評価表

者数」は、93.0%、「貸出冊数」は、86.8%となっている。さらに時間はかかるが、イベント・事業や展示、新しいサービスなどを積極的に行うことで、コロナ禍以前の数字に戻していきたい。

	2019	2020	2021	2022	2023
来館者数(人)	148,761	52,206	79,751	91,440	111,271
	前年比	35.1%	152.8%	114.7%	121.7%
貸出者数(人)	78,871	50,169	68,627	70,868	73,342
	前年比	63.6%	136.8%	103.3%	103.5%
貸出冊数(冊)	252,806	163,959	220,312	219,065	219,352
	前年比	64.9%	134.4%	99.4%	100.1%



報告 1 参考資料 令和 5 年度における指定管理者評価表

④ 利用促進を図るため市広報、web ページ、図書館だより等のほか、更なる効果的な情報提供が行われたか	A 広報活動については、例年通りさまざまな方法で取り組んだ。「広報もばら」への自主事業掲載、ホームページ・ブログの随時更新、「図書館だより」の毎月発行に加え、小学生やティーンズ向けの機関紙を定例発行。「シニア向け図書館だより（いきいきシニア通信）」を発行など。平成 30 年度より開始した図書館ブログについては、ほぼ毎週更新するとともに令和 2 年 9 月に X（旧 Twitter）、翌 10 月に YouTube を開設し、様々な SNS ツールを用い広く図書館のアピール。また市役所 L I N E も積極的に活用。 参加希望者が多かったイベントに対しては YouTube 配信する事で、当日参加できなかった利用者にもその雰囲気を楽しんでもらっている。今後もこれまでの紙媒体での広報に加え、SNS を活用し、更に図書館の魅力を発信続けている。 1. 引き続き、「広報もばら」に毎月事業の掲載、ホームページ ブログの随時更新、毎月の図書館だより発行。 2. 引き続き、小学生向け図書館だより（低中高学年向け 3 種）年 3 回と、ティーンズ向けに年 2 回発行。 3. 引き続き、新聞、地域広報紙や地域雑誌へ事業の掲載 4. 引き続き、広報媒体としてだけでなく情報発信ツールとして X（旧 Twitter）、YouTube を活用	B ネットや広報誌により、利用者の読書意欲を引き出し、工夫を凝らした情報提供が行われているが、特段に効果がある取り組みは見られない。利用者の参加につながるきっかけは、まだ広報や地域誌によるものが多く、ネットが浸透するにはまだ時間が必要である。
---	--	---

2. 管理運営の適正性	指定管理者評価・評価理由		委員評価・評価理由	
① 十分なサービスを提供できる適切な人員配置が行われたか	B	1. 人員体制 館長、副館長、サブチーフ 2 名を含め、全体で 17 名の体制を敷く。開館時間が午前 10 時から午後 19 時のため、早番、遅番の 2 交代制のシフトを敷き、運営に当たる。開館中は、常時責任者が勤務しているシフトで運営。 2. 専門性の担保 図書館業務の専門性を高めるため、図書館司書資格を有するスタッフを中心に業務にあたる。司書率は、76.5%（17 人中 13 人が有資格者）	A	スタッフ一人一人の役割分担が細かく設定されている。通常業務と並行して担当業務があるなかで、シフトが緻密に組まれている。司書率が 7 割

報告 1 参考資料 令和 5 年度における指定管理者評価表

		3. 業務分担 館においては、業務分担による役割を明確化し、スタッフ一人ひとりの役割により、利用者に充分なサービスを提供できる体制を敷く		を超え、配置基準の40%以上を大きく上回っていることは評価できる。																		
② 職員の知識向上等を図るための研修が適切に行われたか	A	弊社では、図書館業務を実施するうえで、最も重要だと考えているものが「研修」。図書館で働くうえで、資格を取るために学んだ内容は、時間とともに古いものになる。弊社では常に最先端の図書館の運営に学び、新しく導入された技術などを研修に取り入れる。弊社独自の e-ラーニングシステムで研修するほか、千葉県立図書館主催の研修にも積極的に参加する。コロナ禍によってオンラインによる研修が進んだ。これからは、リアルとバーチャルの良い部分を活用し、知識向上に努めていく。 下表は第2期指定管理期間で受講した研修参加回数および参加人数 <table><tr><td></td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td></tr><tr><td>参加回数（回）</td><td>62</td><td>38</td><td>56</td><td>41</td><td>45</td></tr><tr><td>延べ人数（人）</td><td>138</td><td>109</td><td>84</td><td>62</td><td>54</td></tr></table>		R1	R2	R3	R4	R5	参加回数（回）	62	38	56	41	45	延べ人数（人）	138	109	84	62	54	A	数多くの研修に意欲的に参加し、分野を考えて取り組んでいる。研修後、茂原図書館でどう活用、応用するかを大事に考え、実践されたい。
	R1	R2	R3	R4	R5																	
参加回数（回）	62	38	56	41	45																	
延べ人数（人）	138	109	84	62	54																	
③ 施設の維持管理、保守点検、修繕および図書管理システム関連への対応が適切に行われたか	A	施設の維持管理・保守点検などについて、仕様書に沿って随時行っているが、経年劣化により、ビル共有部分の老朽化が目立つようになってきている。 図書館トイレやエレベータ内の苦情についてはその都度、ビル管理会社に申し入れしているが、費用なども発生することから、これ以上の清掃などの対応は行ってもらえない状況。特にエレベータ内床の汚れについても、決められたサイクルで清掃しており、他のテナントからはそんな苦情は出ていないとの理由で、対応してもらえない。 館内蛍光灯の老朽化にたいしては、徐々にLED化を進めている。また、館内に設置している監視カメラシステムは、たびたびシステムエラーが発生し、エラー発生時は手動で再起動している。早めの対策が必要になってきた。 1. 施設の維持管理、保守点検	B	施設の維持管理の面で、館内のポスター等の掲示、その他の展示が雑然とし、居心地のいい空間づくりができていないように感じる。保守点検等については、適切に実施されているが、故障や被害が繰り返される																		

報告 1 参考資料 令和 5 年度における指定管理者評価表

		図書館が入居するサンヴェルビルの管理会社が、清掃については太平ビルサービスと業務委託契約を結び行っている。 →4 月にサンヴェルビル電気設備点検 →10 月にサンヴェルビル電気設備点検 →10 月に利用者用女子トイレ排水詰まりで使用禁止（現在も使用できず） →サンヴェル管理事務所による館内蛍光灯の修理（LED 化） 2. 図書館管理システムの保守点検（大崎コンピュータ） →10 月に図書館システムのウイルスバスター更新作業実施 →1 月にシステム不具合が生じたためシステム調査（改善済み） →五郷福祉センター業務端末不調のため交換 →3 月に業務端末メンテナンス 不具合などが発生した際には、早急に対応してくれる。		トイレやブックポストへの対応は関係機関等と協議が必要。
④ 備品台帳により、備品の管理が適切に行われたか	A	備品の管理には「購入物品管理台帳」を作成し、備品管理を行っている。本年度も 9 月の特別整理期間に佐藤係長に来館頂き、管理台帳のチェックを行っている	B	備品管理基準に沿って、適切に行われている。
⑤ 茂原市個人情報保護条例を順守し、利用者の個人情報を適正に管理できたか	A	9 月に、個人情報保護研修(P マーク研修)をスタッフに対し実施。その際に茂原市個人情報保護条例とあわせてスタッフに説明し、理解度テストを全員に実施。 また、個人情報が記入されている帳票類に関しては、全て保管期限を定めており、その期間経過後は生涯学習課に起案し決済後シュレッダーにて廃棄。 8 月末に個人情報保護及び図書館運営に関する弊社の内部監査（セルフモニタリング）を実施し、特段の問題が無い事を確認済み。今年度は、移転作業が実施されることから、内部監査は行わず、新図書館に移転後、内部監査が実施予定。	B	茂原市個人情報保護条例順守に加え TRC 全体で個人情報保護のマニュアルを作成し、研修を行い、適切に管理している。個人情報の管理は、スタッフ全員にその重要性が行き渡るよう、心が

報告 1 参考資料 令和 5 年度における指定管理者評価表

				けて取り組んでいる。
⑥ 事故、災害等が発生した際の危機管理体制が機能していたか また、それに伴う避難訓練等の実施状況はどうか	A	危機管理への対応は、年々重要度をましている。自然災害も、恒常化し、危機管理マニュアルの更新や危機管理のケースデディを常に意識することを心掛けている。 例年行っている消防職員派遣の消防訓練は前回に引き続き今回も行えず、9月に自営消防団による避難訓練を行った。 事故事件ということであれば、本年度もいくつか発生している。 ・サンヴェル 1F のエレベータホールに不審物が投棄（管理事務所に対応を依頼） ・ブックポストに大量の紙芝居が返却。投入口が破損（修理済み） ・外国人利用者がレファレンス対応中、自身のスマートフォンで撮影（マナー違反で注意） など	B	危機管理マニュアルに沿った緊急時の対応などスタッフ全員へ行き渡るよう、取り組んでいる。避難訓練は消防職員の派遣不可の中で自主的に行われていたが、今後は消防署立ち合いのもと実施されたい。

3. 経費の効率性	指定管理者評価・評価理由		委員評価・評価理由	
① 指定管理料が、効率的且つ適正に予算執行されたか	A	効率的で適正に執行された。 【収入の部】 ・自動販売機収入は、予算額に対して 94%の出来 ・コピー収入は、予算額に対して 69%の出来 ・その他では、バックづくりの材料代を 4,000 円計上 【支出の部】 人件費 予算額に対して、ほぼ同額で決算した 報酬費 ほぼ予算額通り決算した 需用費	B	適正に行われている。

報告 1 参考資料 令和 5 年度における指定管理者評価表

		昨年度から光熱水費が高騰し、指定管理料を圧迫したことで、多めに予算化したが、国の補助金などで予算額を下回った 役務費 ほぼ予算額通り決算した 委託料 物価高騰、委託事業者の人件費増など予算額を上回った 使用料及び賃料 物価高騰など予算額を若干上回った 備品購入費 資料購入費は、仕様書の購入金額（10,186,000 円＜税込み＞）を上回った 諸経費 電子図書館の使用料及びコンテンツ費用を計上		
② 経費節減に対する具体的な取組を行い、効率が上がったか	B	経費節減は、図書館スタッフ一同、常に心掛け、日々の業務に臨む。館内の段階的消灯やエアコンについて、熱中症予防のため、夏場はエアコンをフル稼働しますが、夏場以降、特に暖房のエアコン代の方が費用はかさむのでの小まめな温度設定を心がける。 館内スタッフ研修ではプロジェクタや大型画面などを使用し、紙ベースの資料は必要最低限度にとどめる。 また、コロナ禍で本格的に始まった、WEB会議に積極的に参加することで、交通費の節約につながるのと同時に、移動時間が無くなり、会議や研修前後で、すぐスタッフが勤務シフトに戻れるなど、人員配置の効率化にも貢献できる。 ・ 人員の適正配置。 ・ 基本的に残業はせず、効率的な事務処理を行う。 ・ 複数枚にわたる文書は原則両面印刷とし、カラー印刷は必要な時に限り使用。（複合機の標準設定を白黒両面印刷に設定）	B	効率を上げる為には多くの手間を要するが、利用者の安全や利便性、快適性を確保した上で、経費節減に取り組んでいる。

報告 1 参考資料 令和 5 年度における指定管理者評価表

		・館内照明の段階的消灯で令和 3 年度末には館内 1/3 の消灯を令和 5 年度も継続実施。 ・週 2 回の回送時等、自動車を使う場合、交通規則を守り ECO 運転に徹することで、燃費を向上させガソリン代を節約。 ・スタッフ研修の際の資料はスタッフになるべく配布せず、プロジェクタを使用することで印刷及び用紙代を節約。また配布や回覧等が必要な場合は 2 up または 4 up 両面印刷で用紙代を節約。		
4. 業務の改善性	指定管理者評価・評価理由			委員評価・評価理由
① 前回の評価を受けて、適切な改善が図られたか	B	令和 5 年度は、新型コロナウイルス感染症が 5 類に引き下げられたことから、コロナ禍以前の生活に戻り始めた。社会教育施設である図書館も、通常会館、滞在型利用者のニーズを取り戻し始めた一年だった。 この一年間での課題を 3 点ほどあげる ・安心・安全のためのスタッフ研修 指定管理運営業務も身の安全を確保しなければならない。世の中は多様化し、安心・安全な社会・生活が脅かされている。そのため茂原警察から講師を招き、話を聞いた。また併せて「さすまた」の使い方を実習した。図書館には本好きな人たちが集う場所ではなくなってきた。利用者の安全・安心を守るために、図書館スタッフも十分に対応できるようにしていく ・七夕まつり再開 新型コロナウイルス感染症が流行し、「茂原七夕まつり」も中止が続いていたが、令和 5 年度から再開した。図書館も展示などで参加した。70 年も続いている郷土のまつりということもある。伝統を大切にすることは、地域の図書館の重要な役割でもある。今後デジタルアーカイブなどの手法を検討していきたい ・電子図書館の利用拡大 電子図書館サービスを開始し、3 年が経過しようとしている。アンケートでも質問したようにまだまだ浸透していないし、利用もされていない。最も重要なのはコンテンツを増やすこと、魅力的なコンテンツを提供することである。また、地域図書館らしく、小中学校の郷土学習へ資料提	B	前年度の評価・意見等について、各種改善などの成果が見受けられ、前向きな経営姿勢が感じられる。

報告 1 参考資料 令和 5 年度における指定管理者評価表

		供することで、地域図書館として貢献できる。そのためには郷土資料の電子書籍化が必須である。 これから研究していきたい。		
総合評価及び所見				
B	自主事業の実施や工夫を凝らした情報提供などにより、利用者の読書意欲を引き出す取り組みを継続的、効果的に実施したことは評価できる。コロナ禍が続いた状況でも貸出が回復しており、行事も一部を除き順調に実施されているので、今後も創意工夫のうえ継続してほしい。図書館の移転に関しては、東部台文化会館・公民館・福祉センター図書室等にも新図書館基本計画を置いて閲覧出来るようにし、今後の利点を市民に伝え、理解が得られるように努められたい。			

《評価方法》

- ・評価項目ごとに 4 段階評価を行い、その結果に応じて総合評価を行う

《評価内容及び基準》

評価	評価内容及び基準
A：優良	評価項目に対して積極的な取り組みがなされ、協定書等で市が求めた水準を超える成果があった
B：適当	評価項目に対して一定の成果があった
C：課題あり	協定書等で市が求めた水準をみたしているが、一部に課題がある
D：要改善	評価項目に対する課題が解決されておらず、改善が必要である